

**製品名: Mcl-1 (リン酸化 Ser159) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04980**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	About 40kDa in human,39kDa in mouse and rat

**抗原情報**

遺伝子名	MCL1
別名	MCL1; BCL2L3; Induced myeloid leukemia cell differentiation protein Mcl-1; Bcl-2-like protein 3; Bcl2-L-3; Bcl-2-related protein EAT/mcl1; mcl1/EAT
遺伝子 ID	4170.0
SwissProt ID	Q07820
免疫原	抗血清は、ヒト MCL1 の Ser159 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 125-174

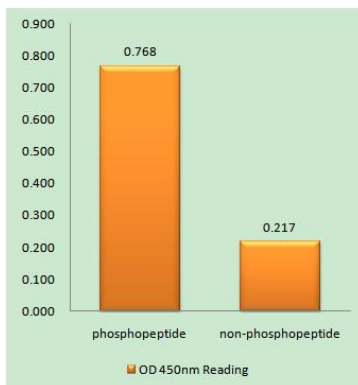
**背景**

この遺伝子は、Bcl-2ファミリーに属する抗アポトーシスタンパク質をコードしています。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。最長の遺伝子産物（アイソフォーム1）はアポトーシスを阻害することで細胞生存を促進しますが、選択的スプライシングを受けたより短い遺伝子産物（アイソフォーム2およびアイソフォーム3）はアポトーシスを促進し、細胞死を誘導します。[RefSeq 提供、2010年10月]機能：アポトーシスと細胞生存の調節、および生存能力の維持に関与しますが、増殖の維持には関与しません。他の多くのアポトーシス調節因子との相互作用により、その効果を媒介します。アイソフォーム1はアポトーシスを阻害し、アイソフォーム2はアポトーシスを促進します。誘導：骨髄性白血病細胞株 ML-1 において、ホルボールエステル誘導による単球/マクロファージ経路の分化初期に発現が増加します。ML-1細胞においてCSF2によって急速にアップレギュレーションされます。熱ショック誘導性分化によってもアップレギュレーションされます。レチノイン酸誘導性分化の初期段階で発現が増加することが特徴です。PTM：アポトーシス時に CASP3 によって切断されます。無傷細胞では、切断は Asp-127 の後に優先的に起こり、28 kDa のアポトーシス促進性の C 末端断片を生成します。PTM：Thr-163 がリン酸化されます。タキソールまたはオカダ酸による処理は、追加の部位のリン酸化を誘導します。PTM：PEST 領域の Thr-163 がリン酸化されていない場合、急速に分解されます。類似性：Bcl-2ファミリーに属します。細胞内局在：細胞質、ミトコンドリアと関連しています。サブユニット：BAD、BOK、BIK、BFM と相互作用します（類似性による）。PMAIP1 と相互作用します。アイソフォーム1はBAX、BAK1、TPT1、BCL2L11と相互作用する。アイソフォーム1とアイソフォーム2はヘテロ二量体を形成する。アイソフォーム1およびアイソフォーム2のホモ二量体は検出されない。アイソフォーム2はアポトーシス促進性BCL2関連タンパク質と相互作用しない。

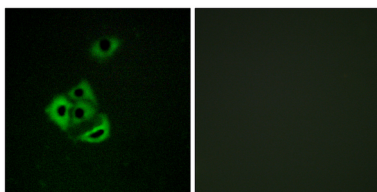
## 研究分野

細胞生物学

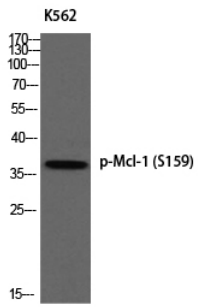
## 画像データ



MCL1 (リン酸化 Ser159) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



MCL1 (リン酸化 Ser159) 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



p-Mcl-1 (S159) 抗体を用いた K562 のウエスタンブロット解析。